

---

# 空気の力タチ

早川 真治

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

空気の力たち

### 【NZコード】

N8247A

### 【作者名】

早川 真治

### 【あらすじ】

日の光がなくなつた地球政府と革命軍の戦いが始まった。

(前書き)

三作目です (\*、、) やはり、矛盾等あります。

30XX年 太陽の燃焼活動が終了し、地球は、闇に覆われていた。  
そして、人類は、酸素を生産して、それを買って暮らしていた。勿論、酸素を買えない人も出てきていた。

値上がり、昔あった、ガソリンの値上がりの様に… イヤ、それ以上のものだたつた。

酸素を買うようになつて、数年 革命軍が現れ、酸素を作り出す機械を奪い 皆に供給しようとしていた。

そして、政府と革命軍の戦いが始まったのだ。

「隊長！！また、酸素が値上がりしました！！」

一人の若者が息を切らしながら云う。

「なに！？政府の奴ら… よし… 五番隊全員を集合させてくれ」「了解！！」

そして、若者は、部屋を出た。

（政府め…） 「はあ…」

隊長は、いろいろな意味をもつた溜め息をはきだした。

「五番隊全員集合しました！！」

と先ほどの若者の声

「よし、では、行くぞ… 目標政府本部…！」

「了解！！」返事と共に聞こえる足音

「1号」「2号」「3号」歩兵隊すべて準備完了です

「よし、出動！！」

「フッ… 今回の値上げで革命軍がどう動くかだな」

「そうですね… でも、心配ありませんよ。フッフッフッ…」

不気味な笑いが部屋に響き渡つてゐる。

「よし、今度こそ、今回で全てを終わらせるぞ！！」

隊長の声で全隊が行動を開始した。『ガーッ ガッ よく来たな革命軍の諸君、今日で終わりにしようじゃないか…勿論、君たちの全滅でなー！ フハハハハッ』スピーカーから流れてくる。

「それは、こっちのセリフだ！！全隊進め！！」

ガーッ 戦車や戦闘機などが一斉に目標に向かつて進む。

(戦闘中……)

「くつ…」

『フハハッ それだけか？』バカにするかのように、スピーカーから流れてくる。

「隊長！！後少しです！！」

ドガーン

正面の大きな扉が壊された。

「よし！！突入！！」

革命軍は、その扉から一氣になだれ込む。

「隊長！！『』は、自分達に任せて下さい！！…」

若者が云つた。

「わかった。頼んだぞ！！」

「了解！！」

「後は、この部屋か」

ガチャッ

椅子に誰かが座っている。

「よく来たな革命軍五番隊隊長…村田紀洋」

椅子に深く腰掛けながら云う。

「まさか、裏でアナタが…！」

「フハハッ！…その通りだよ」

「なぜ…なぜなんです…！」総司令…！」

村田の前で椅子に座っているのは、革命軍総司令の井上隆だった。

「君達には、政府を、政府には、君達を潰しあって、共倒れになつたところを私が出て、酸素をいただいて、民間に高く売るのだよ…！」

まだ椅子に座つたまま笑つている。

「くつ…総司令…いや…井上隆…貴様を口々で斬る…！」

村田は、刀を構えた。

「フハハッ…！」

井上も笑いながら刀を抜いた。

カキンッ

二人の刀が交わる。

「総司令…！…もとの総司令に戻つてください…！…民間を大事にする優しい人に…」

「フハハッ…！…革命軍を作つたのも、全てこのためなんだよ…！」

カキンッ

「そんな…」

ズバッ

「ボーッとするな…！…楽しめんだら…」

井上が村田の左腕を斬りつけて云う。

「くつ…やはり、口々で斬る…！」

そう云つて刀を右手だけで持ち斬りかかる。

「フハハッ…！」

井上も同じく。

ズバツ

「くつ…」

足を斬られている。

「フハハツ！－！まだまだだ…な」

バサツ

井上の、胸を貫いていた。

「村田…すま…」

井上は、言い終わる前に息を引き取った。

「総司令…」

ガチャツ

「隊長…！」

若者が隊員を連れて部屋に入ってきた。

「ああ…終わつたぞ」

村田は、そう云つてその場に倒れた。

「隊長…！」

村田に駆け寄る。

「隊長…しつかりして下さい…！」

村田の腹部に、いつの間にか刀が刺されていた。

「今日からおまえが…総司令だ…頼んだぞ…柴原…」

村田は、そう云つて息を引き取つた。

「隊長…わかりました…」

そう云つて村田に敬礼した。それに習つて他の隊員も敬礼をする。

こうして、政府と革命軍の戦いは、幕を閉じたのであつた。

(後書き)

こんには、早川 真治です (\*・\*)

今回は、テスト中に余つた時間で書いた物なんで色々(何

今後 柴原と平和になつた世界を書くか悩んでいる次第です。

最後に… 読んでいただき有り難う御座います。では、また次回

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8247a/>

---

空気のカタチ

2010年10月11日00時55分発行